

東京都北区 東十条の看板建築

18N1097 永長真結

昭和の雰囲気残る街、東十条。
今も活気ある商店街が街全体に広がっている。

この街の形成過程や街を構成する要素とは何か。
此处では町に残る“看板建築”に着目し、それらを調査する。

北区の歴史 (参考:<http://kitaku.info>)

昭和初期～ 軍事施設や軍需工場の建設・区内(当時王子区)への移転が進む。

昭和15年 軍事施設が集中する為、軍需景気が高まり人口急増。
→軍需工場周辺に商店街が発展

昭和20年 疎開・空襲により人口半減。王子製紙焼失。

戦後 敗戦とともに軍施設は解体した。
広大な軍用地の跡地には、学校・団地・公園・工場・研究所・競技場などに利用されている。
その建設時に植えられた桜が、各地で花見の名所になっている。



昭和7年の北区

黄緑色で示されているのが当時の軍事施設や工場。軍施設の面積は北区の1割を占めた。
オレンジ色で示しているのが今回の調査範囲である。
昭和7年当時の「王子製紙工場」は1945年の空襲により焼失。その跡地には、戦後「王子五丁目団地」が建設された。

予想～看板建築の分布～

- ・大通りに面した所に多く、路地にはない？
- ・駅前商店街を中心に分布している？
- ・現在店舗として利用されているもの、利用されなくなり住居化しているものが多い？

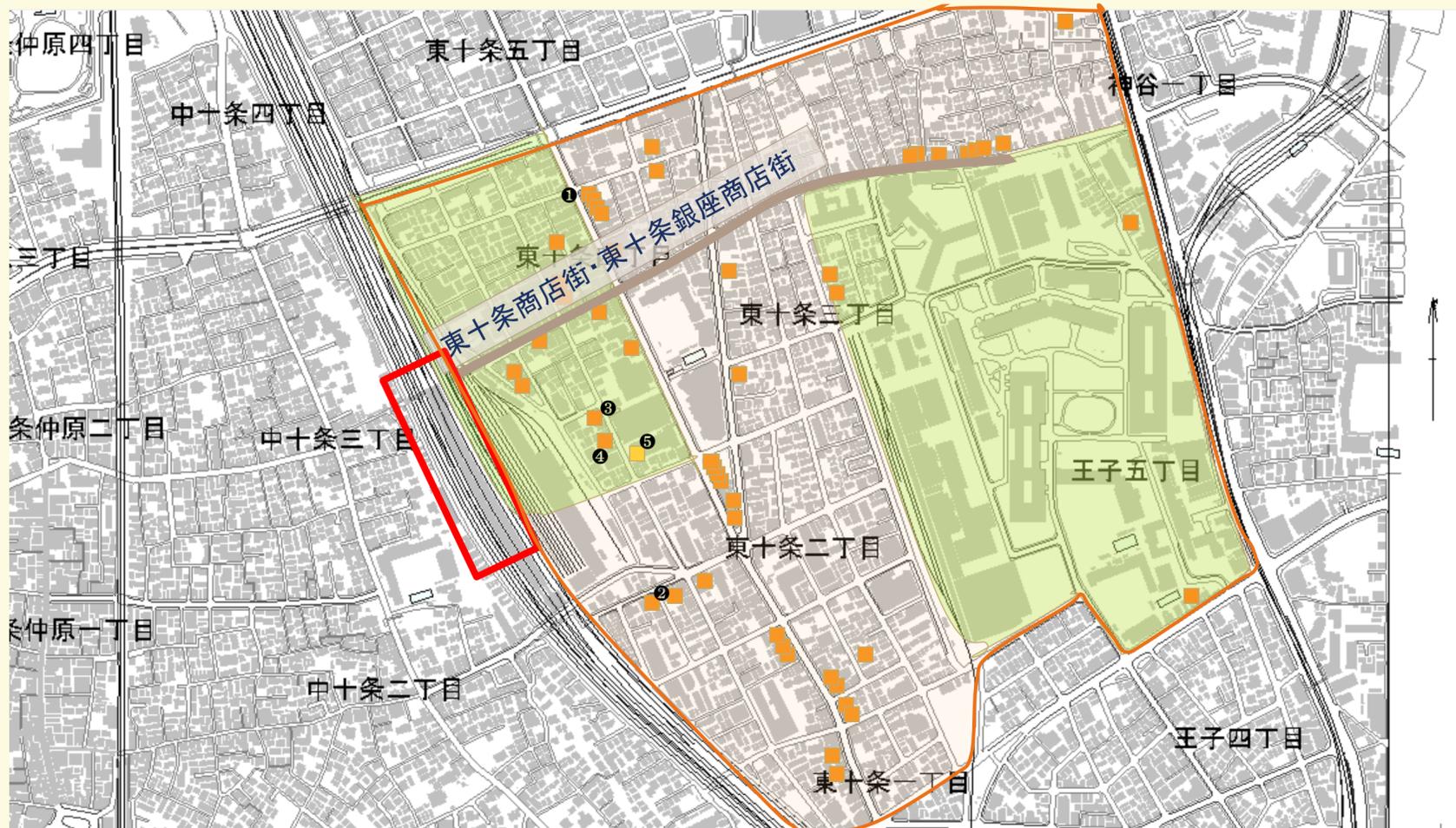


① 街路に沿ったファサードが並ぶ。
4軒のうち3軒は現在店舗としては使われていない。

②③ 現在も営業を続けており、昭和のレトロな雰囲気を残している。

④

アパートでありながら看板建築のようなファサードをもつ建物。
商店街の端に位置する。2008年竣工。



④



⑤

結果

総数:44 現在も店舗として利用:21 住居化・空き家化:12 その他:1

- ・東十条駅と工場を結ぶ形で商店街が形成され、工場周辺には多くの商店が建ち並んだことが分かった。
- ・看板建築は大通りに面するものがやはり多いが、商店街から伸びる路地にも数軒残っていることが分かった。
- ・現在も商店街が賑わう理由として、戦後工場跡地に団地が建設されたことで、かつての労働者の移動経路が人々の生活動線に置き換わり、現在も利用され続けているため、と推測できる。
- ・多くの商店建築が残るエリアでは、新しく建てられたアパートにおいてもファサードを貼り付けたような建築が見られた。建て替えによってなくなりつつある看板建築のコンテキストが、街の景観に影響し続けていることを確認できた。